

平成30年度 事業計画

社会福祉法人いわせ長寿会

特別養護老人ホームいわせ長寿苑

ショートステイいわせ長寿苑

デイサービスいわせ長寿苑

いわせ長寿苑居宅介護支援事業所

訪問介護いわせ長寿苑

訪問看護いわせ長寿苑

介護職員初任者研修事業

I 運営理念

「共に生き わかちあえる毎日」

いわせ長寿会は、「共に生き わかちあえる毎日」を運営理念として、利用者、家族、地域、職員を4つの柱として、それらが一体となって家庭的な雰囲気の中で生活が送られるよう開放的な運営を目指していきます。お一人おひとりの人権を尊重し、長寿を共に喜ぶことのできる施設として役職員一同力を併せて努力していきます。

II 運営方針等について

1、基本方針

本年度も運営理念実現のために、特別養護老人ホームにおいては、生活感の創造、外出外泊の推進、24時間シートを活用した個別介護の徹底等ユニットケアの向上を目指すと共に、嘱託医との連携により看取り介護の充実を図りながら稼働率98%を目指します。ショートステイにおいては、より多くの利用者ニーズに対応すべく、サービスの個別対応・即応性の強化を図り、稼働率83%を目指します。デイサービスにおいては、本年度も多くのボランティアの方々の協力のもと多様なサービスプログラムの実践に取り組みながら、登録人数の増加を図り、稼働率83%を目指します。居宅介護支援事業所においては、行政・地域包括支援センター・医療機関・事業所等他との連携を強化し、地域包括ケアシステムの一旦を担う役割をより意識していきます。訪問介護事業においては昨年6月に新規開設して順調に件数を伸ばしている事から、引き続き件数増加に努め、身体介護を中心に新規15件の獲

得を目指します。又訪問看護事業を開始予定とし、これは岩瀬・長沼地区において現在事業所がないという現状を踏まえ、地域の社会資源及び地域福祉の充実を図り、地域包括ケアシステムの構築にも大きな役割と期待を担っていきます。

また昨年度は「いわせ長寿苑の廊下と地域を繋ぐ」をモットーに地域との結びつきを意識した取り組みとして様々な公益的取組を実施し、本年度も継続して多様化する福祉ニーズに計画的かつ柔軟に対応したサービスの充実を図ってまいります。

本年度は6年に一度の医療保険・介護保険の同時改定になります。理念実現に向けて様々な施策の展開を図ることとします。

2、利用者処遇の向上・充実（特別養護老人ホーム）

開設から10年目を迎えるいわせ長寿苑では、自宅に近い環境の中で利用者・職員が共同生活を送り、一人ひとりの個性や生活リズムに応じて暮らしていく事をサポートしながら「暮らしの継続」を図っています。

いわせ長寿苑では、24時間シートという個人ごとに作成するツールを用いて利用者処遇の向上と充実を図っております。この24時間シートの作成にあたっては他職種間の協働によって定期的に見直しを図り、常に各利用者の身体状況や生活状況に合ったサービス提供が行えるように取り組んでいます。又、ご家族とのコミュニケーションや協力を得て、個室を「自宅」とした生活空間の充実を目指し、共同生活場所の空間においても、季節を感じる壁面装飾や昔馴染みの箆笥やテーブル等を取り入れて、直接的な充実はもとより間接的な住環境への配慮にも力を入れています。

また、利用者処遇に欠かせない利用者の情報共有においては、iPadを活用し常に最新の情報が確認、共有しながら介護記録等の負担軽減を図り ICT（情報処理・通信技術）導入活用で業務効率化を図っています。

（1）食事

日々の生活の中で一番の楽しみである食事は、嗜好、健康状態に対応した食事の提供に努め、提供時間や食事内容等個別的な取り組みを強化した中でも家庭的な雰囲気ですら食事を楽しめるような雰囲気作りにも配慮した食事提供を心掛けていきます。

- ①栄養マネジメントの実践を踏まえ、定期的な嗜好調査や食事状況のアセスメントを行い、個々人の最適な栄養ケアを目指し、栄養状態・健康状態の改善に取り組みながら生活の質（QOL）の向上を目指していきます。
- ②経口維持加算を実施継続し、利用者の方々へ口から食べる支援の充実の為に他職種間による意見交換の充実や食事介助等における技術的向上を目指して取り組んで参ります。
- ③食事前の口腔体操や歯科医院のご協力のもと定期的な口腔ケアや口腔指導を頂き、よりおいしく食事が頂ける体づくりやおいしさを感じ取れる口内環境を整えていきます。
- ④厨房をはじめ食品の衛生管理には万全を期し、0-157やノロウイルスをはじめとする食中毒の予防を徹底し、その防止策として職員教育や衛生意識の向上に努め、委託業者には、定期的を開催している栄養管理委員会に出席いただき、よりよい食事の提供と食の安全に努めていける

よう現場職員との意見交換を活発に実践して参ります。

(2) 入浴

ユニット内個浴は温泉入浴でアルカリ性単純泉です。神経痛や疲労回復、健康増進等に適応し身体の清潔と心身のリラックスの場としてゆっくり快適に入浴していただけます。また、利用者の状況に応じた入浴方法の実施（機械浴・個浴）により安心・安全な入浴提供に努めていきます。

(3) 排せつ

自立した日常生活を送る上で排泄コントロールは必要不可欠なもので排泄の支援は生活全般の支援にもつながります。1人1人の適切なタイミングで排泄ケアを実施する事で尊厳のある生活の実現につなげます。

(4) 身体拘束廃止の取組

身体拘束は、人権尊重の観点からも生活の質を損なうことになることを職員全員が共有し、身体拘束ゼロを目指します。ただし、利用者の様態により、生命または身体を保護するためやむを得ない場合や、緊急やむを得ない場合を除き、必要と判断した場合は、家族の承諾を得て一時的に行動制限を行います。定期的には「身体拘束ゼロ対策運営委員会」を開催し、廃止の方法を探りながら更に虐待防止に向けた取り組みとして職員教育システムの構築や言葉の暴力等をなくす事等を実践して参ります。

(5) 健康管理

利用者が安心して生活ができるよう健康管理に努め、疾病の予防、早期発見に努めます。

①利用者の心身の状態を把握し、囑託医師の指示に従いながら適切な処置を行い速やかにご家族への状態報告を行って本人、家族の意向を尊重して対応していきます。

②年々増加傾向である終末期ケアについては、看取り指針に基づき、利用者、家族、囑託医と十分な合意形成を図り適切に対応して参ります。

(6) 防災・防犯計画

火災もしくはその他の災害が発生した場合に被害を最小限にとどめるため、日頃から防災意識を高め、有事に備えるために毎月1回訓練を行って行き、今年度からは更に水害や不審者侵入等を含めた訓練計画を実施して参ります。

3、働きやすい職場環境づくり

(1) 人材の育成

職員資質の向上を図るため、職員研修計画を策定し、職場内研修の充実を図るとともに、職場外研修についても積極的に参加を推進し、資格取得支援制度をはじめ、各種支援制度の積極的活用を推進して参ります。

また、介護職員初任者研修で職員が講師を務めることを通じて、教育指導能力とスキルの向上を目指して参ります。

(2) 人材の確保

人材の確保については大きな課題となっています。年間計画に基づきリクルート活動や広報活動等に力を注いで参ります。又将来的に懸念されている介護職員不足に対し奨学金活用での外国人介護福祉士の受け入れを推進してまいります。

(3) 職員処遇の改善

これまでトータル人事制度の実施や介護職員処遇改善交付金等において職員処遇の改善に努めて参りました。昨今の労務環境を取り巻く様々な情勢変化や介護職員不足等が懸念されている中、今後の職員処遇における見直しや対策としてキャリアマップの再構築や給与形態の見直し等計画的にすすめて参ります。

(4) EAP（職員支援プログラム）サービスの充実

メンタルヘルス対策として、ストレスチェック制度と併せて、職場ストレス、上司や部下との人間関係、プライベートな悩み（夫婦関係、育児、介護等）など、仕事の生産性に影響を与えている課題の原因と客観的に向き合い、サポートを行っていきます。又メンタルヘルスの1次予防とされる職場環境改善計画に基づき積極的に取り組んで参ります。

4、災害に強い施設づくり

(1) BCP計画

激甚災害や、新型インフルエンザ等の流行、水害や不審者侵入時等に際し、利用者、職員の安全確保に努めながら事業活動の継続を図るため

に BCP（事業継続計画）計画に基づき、ポータブル発電機や利用者、職員、避難者の 1 週間分の非常食等を備蓄するとともに、定期的な見直しを図りながら実効性を確保して参ります。

（2）災害時施設相互応援協定の締結

福島県老人福祉施設協議会会員施設間において、被災していない施設が被災施設入所者等の受入、または応援職員を派遣する等相互の援助を円滑に行うための協定に参加しております。又地域における役割として須賀川市との協定により災害時における福祉避難所としての役割も担っています。

5、3 カ年戦略計画づくり

事業の継続と経営理念の実現を図るため、いわせ長寿会 3 カ年戦略計画を策定いたします。計画策定にあたっては「人・物・金・情報・時間・技術」を機軸として、社会福祉法人としての社会的使命・役割と法人理念の実現にむけて持続性と蓋然性ある計画策定を行い実施して参ります。本年度は計画策定 2 年目にあたり新たな課題への取組を行って参ります。

6、地域連携、地域貢献

「待つのではなく赴く事」を念頭に、いわせ地区地域行事への参加や地区別集会所での研修会の実施、学校・幼稚園等の教育関係機関との連携強化等、地域一員としての役割をもって地域に赴く計画をすすめて参ります。

また福島県社会福祉協議会と社会福祉法人経営者協議会による法人間連携による地域における公益的取組試行事業として、基本事業の相談支援事業や

地域に合った事業としての生活困窮緊急支援事業等他にも参加し取り組んで参ります。

7、広報活動

いわせ長寿苑の活動を広く知ってもらうために、ホームページの充実を図るとともに、施設と利用者、家族とのかけはしとなる広報誌「四季」を例年通り4回発行して参ります。私共の広報活動を常に検討し単に情報を発信するだけではなく社会・地域との双方向コミュニケーションの充実の為に活動して参ります。

Ⅲ 事業所別計画について

平成 30 年度 ユニット別事業計画

事業所・ユニット名

特別養護老人ホームいわせ長寿苑 やまざくら・まつ

1. 目 標

- (1) 利用者の安心した暮らしの継続と地域と交流を図る。
 (2) 働きやすい職場環境作り。

2. 事業計画達成のための業務目標

視点	番号	業務目標	目標項目	目標値	結果/達成率
財務	①	ユニット稼働 10 名	利用者の状態変化の早期発見と健康管理	稼働率 98%	
顧客	①	介護事故件数軽減	服薬・骨折事故を無くす	服薬事故 4 件以下・骨折 1 件以下	
	②	一人一人にあった排泄ケアの提供	排泄パターン・排泄方法の見直し	利用者 20 人	
業務	①	毎月行事の実施	・誕生月の外食・外出支援の実施 ・地域行事への参加	外出 1 回/1 か月以上	
	②	利用者の暮らしの継続	24 時間シートを活用し自宅と変わらぬ生活の提供を目指す	半期で評価する。	
人材	①	介護技術・知識の向上	研修会への参加 毎月の勉強会の実施。	毎月の勉強会参加	
	②	業務プラス 1	職員一人一人が仕事に自覚と責任を持ちやりがいを感じる。	1 回/1 ヶ月以上	

3. 目標数値達成のための具体的計画

目標項目		具体的活動計画
財務 ①	ユニット稼働 10 名	<ul style="list-style-type: none"> ・入退間日数を少なくする為に、対応できる職員を育成する目的の勉強会（実調）を実施し、いつでも誰でも対応でき入退居がスムーズに進むようにする。（稼働率の維持） ・毎月の勉強会実施で職員一人一人が介護力を持ち、状態変化や異常の早期発見の気づく力を養う。
顧客 ①	介護事故件数軽減	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のユニット会議で服薬マニュアルの見直し、服薬ロールプレイを行う。 ・ヒヤリハット報告書から原因を分析し介護方法を統一する。
顧客 ②	一人一人にあった排泄ケアの提供	<ul style="list-style-type: none"> ・排尿・排便記録、排泄動作から排泄障害の原因を分析し、本人のニーズを踏まえ他職種（看護師、リハビリスタッフ）と連携して排泄パターンや内服薬の見直し、機能訓練を取り入れ自立した排泄・オムツ外しに向けて取り組み褥瘡予防へも繋げる。
業務 ①	毎月行事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生日には近所に外出してご飯を食べたりプレゼントを渡したりとその人に使う時間を増やす。また、家族も一緒に参加できるようなアプローチや出前を頼んで祝う。 ・施設外の行事に参加していく。
業務 ②	利用者の暮らしの継続	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が利用者一人一人の生活リズムを正確に理解し個々にあった支援を提供する。 ・利用者のニーズや状態変化時は 24 時間シートを見直し、2 カ月に一度は更新を行いケアの統一を図る。
人材 ①	介護技術・知識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に研修・勉強会に参加し職員一人一人がスキルアップを図る。 ・毎月のユニット会議時、各ユニットスタッフ持ち回りで勉強会を開催し急変や看取りへの不安感を軽減する。
人材 ②	業務プラス 1	通常業務の他、得意な事や自分にしか出来ない役割を一つ見つけ自覚と責任を持って積極的に行動する。

平成 30 年度 ユニット別事業計画

事業所・ユニット名

特別養護老人ホームいわせ長寿苑 もみじ・けやき

1. 目 標

- (1) 利用者の安心した暮らしの継続と自立に向けたケアの統一。
 (2) 働きやすい仕事環境作り。

2. 事業計画達成のための業務目標

視点	番号	業務目標	目標項目	目標値	結果/達成率
財務	①	ユニット稼働 10 名の維持	・利用者の状態変化の早期発見と健康管理。	98%	
	②	介護事故件数軽減	・服薬・骨折事故をなくす。	事故 5 件以下	
顧客	①	皮膚状態の管理	・オムツ使用量の軽減。 ・オムツ使用量の見直し。	褥瘡の可能性低リスク者 8 割	
	②	毎月行事の実施	・誕生月の外出・外食支援。(家族へのアプローチ) ・地域行事への参加。	外出支援最低 1 回/月	
業務	①	利用者の暮らしの継続	・自宅と変わらぬ生活をするため 24 時間シートの更新	・共通の支援が出来るか半期ごとに評価する ・活用のモデルを作る	
	②	スタッフ一人一人の知識・介護技術のレベルアップ	・研修参加 ・勉強会(毎月 1 回実施)	毎月 1 回実施	
人材	①	働きやすいユニット環境作り	・有休消化。	6 日/年	
	②				

3. 目標数値達成のための具体的計画

目標項目		具体的活動計画
財務①	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状態変化の早期発見と健康管理。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入退間の日数を少なくするために、対応できる職員を育成する目的の勉強会の実施し、誰でもいつでも対応でき、入退がスムーズに進むようにする。(稼働率の維持) ・毎月の勉強会実施で職員一人一人が介護力を持ち、状態変化や早期発見の気づく力を養う。
顧客①	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬・骨折事故をなくす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者個々のリスクを考え、ユニット全体でのリスクを考え、ユニット会議で討議・対応策を考え、事故防止委員会を中心に対応し、事故を未然に防げるようにする。事故が発生した場合、ユニット全体で、検証、是正内容を考え、対応していく。
顧客②	<ul style="list-style-type: none"> ・オムツ使用量の軽減。 ・オムツ使用量の見直し。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オムツ使用量、パットの適正を定期的に見直し、オムツの必要量の把握と利用者個々の排泄時間・排泄状況を把握する。皮膚状態の確認と外傷の早期発見・早期対応に繋げ、褥瘡の発生件数を軽減し利用者の苦痛ない生活を確実なものにする。
業務①	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生日の外出・外食支援。(家族へのアプローチ) ・地域行事への参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の誕生日に本人が望むこと(外出や外食など)を調べ、実施する。家族へのアプローチも行い、外出や外食に合流できる場合は一緒に過ごして頂く。プレゼントの準備は居室担当職員が行う。 ・須賀川、旧長沼町、旧岩瀬村、鏡石町等、近隣地域の行事に参加し地域交流を行う。
業務②	<ul style="list-style-type: none"> ・機能訓練の実施。(記録の充実) ・24時間シートの更新。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニット職員全員が統一した機能訓練(該当者)の実施と記録の充実をすることで、利用者の現状維持と生活の質を向上させ、暮らしの継続をサポートしていく。 ・利用者の変化を敏感に感じ取り、職員全員で共有、24時間シートの更新を行っていく。
人材①	<ul style="list-style-type: none"> ・研修参加 ・勉強会(毎月1回実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の研修へ参加し、職員一人一人のスキルアップを目指す。 ・毎月の勉強会実施で職員一人一人が介護力を持ち、状態変化や早期発見の気づく力を養う。勉強会での講師をローテーションで行い教材提供の力を養う。
人材②	<ul style="list-style-type: none"> ・有休消化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一年かけて有給を消化し休息をとり自己の体調管理に努める。

平成 30 年度 ユニット別事業計画

事業所・ユニット名

特別養護老人ホームいわせ長寿苑 りんどう・ぼたん

1. 目 標

- (1) 健康管理の徹底と、終末期でも安心して生活を送ることが出来る
- (2) 地域社会とふれあう機会を持ち、自宅と変わらない生活の継続が出来る
- (3) 働きやすい職場環境づくり

2. 事業計画達成のための業務目標

視点	番号	業務目標	目標項目	目標値	結果/達成率
財務	①	ユニット稼働 10 名の維持	健康管理の徹底と、状態変化の早期発見	稼働率 98%	
顧客	①	介護事故件数軽減	①服薬介助方法の定期的な確認と個別マニュアルの見直し(随時) ②ヒヤリハットの分析を行い重大事故に繋げない	服薬事故 11 件以下	
	②	褥瘡発生件数軽減	定期的な圧抜き、体位交換の実施	褥瘡発生延べ 26 件以下	
業務	①	利用者の暮らしの継続	①自宅と変わらぬ生活をする為、24H シートの活用 ②機能訓練の実施	①半期事に介助方法のテストを行う ②機能訓練の実施(毎日)	
	②	終末期での安定したケア	看取りケアの実施	苦情 0 件	
	③	外出支援の実施	毎月の外出支援	毎月 1 回	
人材	①	働きやすい職場づくり	定期的な有給休暇の取得	年 5 日以上の取得	

3. 目標数値達成のための具体的計画

目標項目		具体的活動計画
財務 ①	ユニット稼働 10 名の維持	職員間でのコミュニケーションの充実を図る事で、申し送りの漏れを防ぎ、些細な変化でも見逃さないようにする。状態変化がおきた際は、多職種との連携を速やかに行い、重症化を防ぐ
顧客 ①	①服薬介助方法の定期的な確認と個別マニュアルの見直し（随時） ②ヒヤリハットの分析を行い重大事故に繋げない	①定期的な服薬マニュアルの見直し。 ②ヒヤリハットをもとに原因分析を行い、大きな事故を未然に防ぐ
顧客 ②	定期的な圧抜き、体位交換の実施	1 時間に 1 回の圧抜きの実施。2 時間おきの体位交換の実施。状態変化時の圧抜き、体位交換の速やかな対応
業務 ①	①24 時間シートの活用 ②機能訓練の実施	①6 ヶ月に 1 回と状態変化時の 24 時間シートの更新 ②毎日の機能訓練の実施
業務 ②	看取りケアの実施	看取り期を迎える環境づくりとして、ご家族との連絡や多職種との連携を図り、安心したケアの提供を行う。
業務 ③	毎月の外出支援	毎月 1 回は買い物などでの外出支援を行う
人材 ①	定期的な有給休暇の取得	誕生日月には 2 日以上取得を含め、年 5 日以上取得し、心身共にリフレッシュすることが出来る

平成 30 年度 ユニット別事業計画

事業所・ユニット名

特別養護老人ホームいわせ長寿苑 やまゆり・すみれ

1. 目 標

- (1) 健康管理の徹底と、終末期になっても安心して生活を送ることが出来る。
 (2) 地域社会と触れ合う機会を持ち自宅と変わらない生活の継続ができる。
 (3) 入居者、家族と信頼関係を構築する。

2. 事業計画達成のための業務目標

視点	番号	業務目標	目標項目	目標値	結果/達成率
財務	①	ユニット稼働 10 名の維持	日々の状態変化に気づき速やかな対応を実施する	平均稼働率 98.0%	
顧客	①	介護事故発生件数の軽減	① 事故分析力を向上させ重大事故を防ぐ ② 分析からの是正、対策の強化	重大事故 0 件	
	②	交流しやすいユニット形成	ご家族とコミュニケーションを密にできる環境とシステム作り	入居者 1 名に対し 6 カ月/1 回	
業務	①	社会性を絶やさない支援の実施	① 外泊、外出支援の実施 ② 行事参加率の向上	外出 1 カ月/1 回	
	②	利用者の状態に合わせた自立(自律)支援の提供	① 選択できる生活の継続 ② 看取り介護の実施	① 6 カ月/面接 ② 終末期の施設看取り 100%	
	③	入居者の暮らしの継続	③ 自宅と変わらぬ提供をする為 24 時間シートの活用	③ ・共通の支援が出来るか半期ごとに評価する。 ・活用のモデルを作る。	
人材	①	退職者 0	働きやすい、相談しやすい職場環境の構築	環境による退職者 0	

3. 目標数値達成のための具体的計画

目標		具体的活動計画
財務①	日々の状態変化に気づき速やかな対応を実施する	職員間の情報共有・申し送りの徹底と習慣化により小さな変化に気づき支援することが出来るようになる。状態が変わった際は多職種連携し速やかな対応を実施する事ができるようにしていく。
顧客①	①事故分析力を向上させ重大事故を防ぐ ②分析からの是正、対策の強化	小さな事故から原因の本質を突き止めることが出来るようになり、重大事故を無くすことが出来るようにしていく。KYTを実施し分析力を向上させることで効果的な是正と対策が立てられ同じ事故が起こらないようにしていく。
顧客②	家族とコミュニケーションを密にできる環境とシステム作り	3カ月に1度出納帳の報告を行う際に、ユニット職員からの文書作成と写真添付書類の作成を行う事と、面会時には職員からの近況報告と行事告知を行い家族のユニット行事参加や家族のユニット来場回数を増やし信頼される関係を築いていく。
業務①	①外泊、外出支援の実施 ②行事参加率の向上	①待ち合わせ外出の支援方法活用し、入居者と家族の時間をできるだけ設ける。外泊時は計画的な外泊(短期在宅復帰)の支援方法を活用し自宅への訪問アセスメントを行い計画を立て実行していく。その後、評価アンケートと改善策を立て次回につなげていく。 ②行事計画書作成時に別紙でユニット内外に告知を打ち、楽しみに期待を持っていただき参加率の向上を図る。
業務②	① 選択できる生活の継続 ② 施設での看取り介護実施	① 6カ月に1度入居者と面談を実施し趣味嗜好の確認、変更を聞き取り支援に取り入れていく。 ② 終の棲家に選んでもらうこと、安心して看取り期を迎えられる環境と機能の維持向上を図り、看取り介護のPDCAサイクルを構築する。
業務③	③自宅と変わらぬ提供をする為24時間シートの活用	③ 半期ごとに24シートの内容を修得し実践できているかチェックし評価していく。
人材①	働きやすい、相談しやすい職場環境の構築	有休休暇を使用する事で職員の健康状態を維持し気持ちよく働くことが出来る。 また人事考課以外の面接機会を増やし、悩みや相談に応じられる環境を作る。また、会議やミーティング等で発言できるよう普段からチーム内でコミュニケーションを密に取っていく。

平成 30 年度 事業所別事業計画

事業所名

ショートステイいわせ長寿苑

1. 目 標

- (1) 年間平均稼働率 83 パーセント
- (2) 根拠を理解した介護を行えるようになる

2. 事業計画達成のための業務目標

視点	番号	業務目標	目標項目	目標値	結果/達成率
財務	①	コスト意識をもった業務	ショート利用中での体調不良の早期発見が出来る	ユニット勉強会年 4 回	
	②	緊急利用に対応が出来る	情報の少ない利用者の場合も緊急利用を可能にする為様々場面想定をして訓練する	事例検討 5 件以上	
顧客	①	忘れ物、荷物誤混入が予防できる	ユニット内の整理整頓を行い、指さし点検を声を出しながら行う事で予防する	忘れ物、誤混入年間 10 件以下	
	②	顔の見えるサービス提供を行う	送迎時や面会時に家族とコミュニケーションを取り信頼度を高めリピーターを増やす	苦情年間 3 件以下	
業務	①	転倒事故が防げる	随時、利用者のアセスメントを行い、転倒リスクの高い利用者に関して対応方法を検討する	転倒事故年間 10 件以下	
	②	服薬事故が防げる	声出し確認、複数人での確認を行う事、ipad でアラーム機能も使用する	服薬事故、年間 5 件以下（職員起因は 0）	
人材	①	根拠を理解した介護を行う	ミーティング時など根拠を説明し話せるようになる。又もち回りで司会進行も行う事で説明の仕方、まとめ方も覚える	サービス内容検討会、月 3 件以上実施	
	②	働きやすい環境作り	健康状態の聴き取り、シフト調整。誰でも意見や要望を言えるようになる	年 3 回の面談の実施（人事考課以外）	

3. 目標数値達成のための具体的計画

目標項目		具体的活動計画
財務①	コスト意識をもった業務	ショート利用時の体調不良を早期発見することにより、受診後の再利用までの期間を短縮して稼働率向上を狙う。 体調不良の早期発見が出来るように利用者の「いつも」を知るとともに、疾患によりどのような症状が発生するのかをユニット会議等での勉強会を通して学ぶ（高血圧症・糖尿病・薬について・貧血）
財務②	緊急時の対応がスムーズにできる	リスクの高い利用者や情報の少ない利用者でも受け入れられ、尚且つ満足頂けるように、様々な状況を想定し事例検討で訓練していき、ホールベットの実施も状況により行い、稼働率向上につなげる。
顧客①	忘れ物、荷物誤混入が予防できる	退所時の荷物チェックを指さし確認、およびホワイトボードに漏れない様しっかりと記入する。また、いつも持参してくるものの把握もしていく。職員間の声掛けも励行し、荷物は利用者から預かっている大切な物だと意識づけも行う。
顧客②	顔の見えるサービス提供を行う	引き続き職員が送迎に出る事により、細かな情報が収集出来ているので、他職種への情報共有化も図る。また、利用中の気になる点や、活動内容を具体的に分かり易く伝える工夫として、サマリーの書き方の指導も行いつつ、家族の介護に対する不安の解消アドバイスも行っていく
業務①	転倒事故が防げる	入院や治療の為の受診に至る骨折事故が昨年9月～12月までに、たて続けに3件発生した状況。定期的な利用者や利用が長い方の、ADL状況変化してきており、介助方法の見直しを行い転倒リスクに対応していく。
業務②	服薬事故が防げる	マニュアルの遵守は当然ながら、しっかりと目で見て声に出して確認すると同時に、ipadのアラーム機能も使用しながら、意識付けする。
人材①	根拠を理解した介護を行う	OJTを活用しながら、介護の根拠を分かり易く伝え、納得できるまで何度でも説明を繰り返していく。また、経験則や暗黙知での指導や介護ではなく、共通のモノサシを用いた介護を行えるようにする
人材②	働きやすい環境作り	先輩、後輩だからという隔たりを気にしないで、意見や要望が言いやすいように、検討事案等がある際は、多くの職員の意見を取り入れ、根拠のある説明を行い、理解度も深める。

平成 30 年度 事業所別事業計画

事業所名

デイサービスいわせ長寿苑

1. 目 標

- (1) 情報発信と情報共有の充実でサービスの質の向上を図る。
 (2) サービスの数値化と安定収支と為の手段・方法の確立 (稼働率 83%)

2. 事業計画達成のための業務目標

視点	番号	業務目標	目標項目	目標値	結果/達成率
財務	①	利用者数の獲得	登録者獲得に向けた情報発信と実績報告方法の検討	稼働率 83% 登録者 75 名	
	②	中止率の低減	異常早期発見と前日確認	中止率 5%	
顧客	①	個別ケアの充実	顧客ニーズの見直しと発掘	アセスメント (1 人 20 名)	
	②	サービス可視化への取組み	バーセルインデックス評価の活用	実施結果報告	
業務	①	家族理解の構築と情報共有	①送迎時の情報交換の共有 ②満足度の向上	申し送り 40/月	
	②	状況に応じたサービス提供	選択シートの更新	毎月更新	
人材	①	外部ボランティア活用の継続	①地域理解と情報発信 ②社会参加促進	年間 150 名	
	②	体調管理	シフト調整と朝のミーティング	事故ゼロ	

3. 目標数値達成のための具体的計画

目標項目		具体的活動計画
財務①	利用者数の獲得	登録人数増員の為、居宅向け申し送り方法等の確立 (1) 日々状況報告の充実 (2) 実績送付を居宅訪問に切替し空き状況等の伝達に繋げる。
財務②	中止率の低減	健康状態等において不安がある利用者への前日連絡の実施や利用中の状態管理や家族・居宅への報告を即日に行って当日キャンセルの低減に繋げる。
顧客①	個別ケアの充実	アセスメントの見直しを行い、各利用者の潜在能力へアプローチを行う事で利用者・家族の求めるサービスへ繋げていく。
顧客②	サービス可視化への取組み	対象利用者のADL評価を実施。また、その評価結果をデータ化しサービスの数値化を目指し、ADL向上につなげる。
業務①	家族理解の構築と情報共有	送迎時の家族との会話の充実を図り、自宅状況の聞き取りだけでなく、特に利用状況についても共有し、在宅生活とサービスを繋げ、満足度の向上を図る。
業務②	状況に応じたサービス提供	サービスの多様化を目指し、取り組んでいる個人プログラムを個人メニュー化を結果として残す。
人材①	外部ボランティア活用の継続	①地域理解向上と情報発信 ②社会生活への参加として、様々なコミュニティの参加を目指し、生きがいへと繋げる。
人材②	体調管理	自身の体調管理を適切に行い、送迎時の事故防止に努め事故ゼロを目指す。また、職場での悩みやストレスを溜めない様に定期的な面談や、誰もが意見を言えるような環境作りをする。

平成 30 年度 事業所別事業計画

事業所名
訪問介護いわせ長寿苑

1. 目 標

(1) 訪問件数の量的拡大・質的向上
(2) 昨年度の平均利用単価の達成

2. 事業計画達成のための業務目標

視点	番号	業務目標	目標項目	目標値	結果/達成率
財務	①	新規利用者獲得	空き状況などの情報発信と、市内訪問介護事業の動向を把握する	新規契約 15名	
	②	前年度平均利用単価の達成	身体介護の提供割合の向上	前年平均 3,686円	
顧客	①	ケアプランに沿ったサービスの提供	担当者会議への出席率向上	出席率 90%	
	②	信頼関係の構築	利用者、家族、居宅介護支援事業所との連携を図り、ニーズの再確認とアセスメントの実施	1回/半年	
業務	①	計画書と個別マニュアルの作成	訪問介護計画書の作成	1回/半年 全員分	
	②	訪問介護業務の標準化	サービス提供の内容と質を一定にし満足度アップ	利用者アンケート満足度 80%以上	
人材	①	知識技術の向上	スタッフミーティングと勉強会への出席	1回/月	
	②	情報共有	ケアマネとの連絡を記載する連絡簿の作成	連絡簿作成	

3. 目標数値達成のための具体的計画

目標項目		具体的活動計画
財務 ①	空き状況などの情報発信と、市内訪問介護事業所の動向を把握する	①情報の共有化を図る為、居宅介護支援事業所へ出向き、または電話やFAXでの細目な情報提供を行う ②空き状況についても、情報発信し営業活動を行い、量的拡大を目指す ③加算要件に合わせた取り組み。
財務 ②	身体介護の提供割合の向上	①平均単価アップの為に、身体介護を中心としたサービス件数の増を目指す ②職員の身体介護技術向上
顧客 ①	担当者会議への出席率向上	①利用者ニーズの確認 ②多職種と意見交換を行い、質の高いサービスの提供に繋げる
顧客 ②	利用者、家族、居宅介護支援事業所との連携を図る	①本人または家族へモニタリングの実施（月1回） ②アセスメント評価の実施（半年に1回） ※状態変化時には随時行う
業務 ①	訪問介護計画書の作成	①利用開始から1カ月以内に、訪問介護計画書の作成を行う。更新を半年に1度行いサービス質の安定と向上に繋げる。 ②利用者、家族へ説明を行い同意をもらう
業務 ②	サービス提供の内容と質を一定にし満足度アップ	介護マニュアルの作成
人材 ①	スタッフミーティングと勉強会への出席	①目標の進捗状況の確認、問題点の抽出を行い、改善策を検討しケアに繋げる。 ②スキルアップの為に、各種研修への参加を行い、サービスの質的向上に繋げる ③訪問介護で必要な知識の勉強会の開催（在宅での看取り、家族支援サポート、介護食、緊急時の対応等について）
人材 ②	業務分担の明確化	①事務的作業の業務分担を明確化する ②でもケアマネとのやり取りの出来るツールの作成

平成 30 年度 事業所別事業計画

事業所名
訪問看護いわせ長寿苑

1. 目 標

- (1) 利用者年平均 5.6 人の達成
 (2) 訪問看護サービスの質の確立

2. 事業計画達成のための業務目標

視点	番号	業務目標	目標項目	目標値	結果/達成率
財務	①	新規利用者獲得	居宅介護支援事業所や診療所等の訪問を通して、顧客獲得を図り認知度アップを図る。	月平均 1.6	
	②	時間管理の徹底	労働生産性向上を図る	付加価値額 / 職員数	
顧客	①	訪問看護サービス業務の確立	個々に合った臨機応変な対応を可能にする	アセスメントの見直し評価	
	③	利用者・家族の信頼構築	サービスの質向上の為に	アンケート満足度 60% 以上	
業務	①	多職種連携	内外部の職員間連携強化	担当者会議参加 100%	
	②	業務手順書等の確立	手順書やマニュアルの整備で業務の標準化を図る。	手順書又はマニュアル作成	
人材	①	看護技術の標準化	施設内勉強会や研修への参加	1 人年 3 回以上	

3. 目標数値達成のための具体的計画

目標項目		具体的活動計画
財務①	居宅介護支援事業所や診療所等の訪問を通して、顧客獲得を図り認知度アップを図る。	新規事業である事から計画的な営業挨拶やアフターフォローを確実に行って、計画的に新規獲得の為の対策を行っていきます。 又、病院や診療所に対しても上記同様計画的な行動で実施していきます。
財務②	労働生産性向上を図る	専門職であることから人件費や経費を常に意識して、1人1人の生産性を意識した就業に努め、時間管理に基づいた行動を行っていきます。
顧客①	個々に合った臨機応変な対応を可能にする	在宅であるが故に1人1人の利用者ニーズに添える形でのサービス提供に努め、法に定められた範囲内において出来る限り早期の対応や臨機応変な対応が出来るように、様々な事を想定しながら提供していきます。
顧客②	サービスの質向上の為に	早期にサービスの確立に努めながらも、利用者本人や家族の満足度を高める為に、コミュニケーションを意識した対応に努め法人アンケートでの満足度向上につなげていきます。
業務①	内外部の職員間連携強化	外部のみならず法人全体を意識しながらサービスに取り組むを共に、外部に関しては実施される担当者会議への参加100%を目指して情報共有や連携強化に繋げていきます。
業務②	手順書やマニュアルの整備で業務の標準化を図る。	早期サービス確立につなげていく為にも、手順書又はマニュアル等の作成に努め、職員によつてのサービス提供に相違が生じない様に取り組んでいきます。
人材①	施設内勉強会や研修への参加	施設内外の勉強会・研修会に参加して、知識や技術の向上に努め、学びや刺激により自己研鑽につなげていきます。又学んだことを法人内に反映する事で全体的な質の向上に繋げていきます。

平成 30 年度 事業所別事業計画

事業所名
いわせ長寿苑指定居宅介護支援事業所

1. 目 標

(1) プラン実績数の安定
(2) 法改正に沿った情報の収集とサービスの質の向上

2. 事業計画達成のための業務目標

視点	番号	業務目標	目標項目	目標値	結果/達成率
財務	①	プラン実績数の確保	実績数の安定維持	月平均 66 件	
	②	認定調査の受け入れ	認定調査の実施	年間 24 件	
顧客	①	利用者・家族の満足度の確認・向上	利用者・家族の意向に沿った対応	アンケートで満足度 80%	
	②	利用者・家族との信頼関係の構築	利用者・家族との連携・意向確認・法改正の説明・サービス選択の根拠の説明・入退院時の医療との連携	訪問時・入退院時早期対応・必要時	
業務	①	ケアマネ業務内容・流れの見直し	法改正に沿った業務内容の見直し・サービス事業所の情報収集と把握	年間 30 件以上の事業所の確認	
	②	行政・包括・医療・地域との連携強化	情報の共有・研修参加・地域ケア会議参加・連絡協議会参加	年間 12 回以上の参加	
人材	①	スキルアップ	介護支援専門員更新研修参加・主任介護支援専門員更新研修参加・内外の研修会参加	年間 6 回以上参加	
	②	精神衛生	精神的な健康の維持・促進のため、オンとオフを区別し確実な休日の確保	年 4 日以上の有休の利用	

3. 目標数値達成のための具体的計画

目標項目		具体的活動計画
財務①	実績数の安定維持	調整を図りながら新規の受け入れをする
財務②	認定調査の実施	毎月、定期的に受け入れを実施する 認定調査研修に参加し専門的知識の習得をする
顧客①	利用者・家族の意向に沿った対応	アンケートを実施し利用者・家族の意向を確認する アンケートで満足度 80%獲得 困難事例等の地域ケア会議開催の提案
顧客②	利用者・家族との連携・意向確認	毎月 1 回以上の自宅訪問・面談・意向確認・法改正の説明・新規サービス利用時の選択根拠の説明・入退院時、医療機関への情報提供やサービス担当者会議開催による円滑な在宅復帰への関わり・法改正についての研修の参加による情報収集・施設見学
業務①	法改正に沿った業務内容の見直し・サービス事業所の情報収集と把握	法改正の内容の研修参加 業務内容・流れの確認 サービス事業所の情報収集・サービス選択の根拠説明のための情報把握 月 1 回の会議での状況確認・情報共有
業務②	情報の共有・研修参加・地域ケア会議参加・連絡協議会参加	行政・包括・地域・協議会・医療主催の研修の参加地域ケア会議の参加・協力・須賀川ケアマネ協議会役員（事務局）就任し、須賀川市の事業所との横のつながりを強化する 主任介護支援専門員在中の事業所としての相談窓口
人材①	介護支援専門員更新研修参加・主任介護支援専門員更新研修参加・内外の研修会参加	介護支援専門員・主任介護支援専門員更新研修による知識の向上・他居宅支援事業所との交流・情報収集 施設内定例研修・外部研修の積極的参加による専門的知識を習得する
人材②	精神的な健康の維持・促進のため、オンとオフを区別し確実な休日の確保	勤務表管理による月 8 日以上の実確な休日の確保 コミュニケーションを多くとり悩みを抱え込まない対策をする。オンとオフの切り替えによる精神衛生の維持・向上を目指し、業務の効率アップ

平成 30 年度 事業所別事業計画

事業所・ユニット名

介護職員初任者研修事業

1. 目 標

- (1) 当法人職員人材教育能力の向上
- (2) 地域における福祉理解向上と人材育成

2. 具体的計画

業務内容	具体的活動計画
第 1 回介護職員初任者研修	平成 31 年 1 月～3 月 (予定)
募集人員及び受講費用	20 名 30,000 円
募集実施地域	須賀川市・郡山市・鏡石町・矢吹町・天栄村
募集方法	新聞折込広告・ホームページ・地域回覧板